

お子さんは親の姿を見て学んでいます！

令和4年がスタートしました。今年は寅年。虎（寅）の慣用句に、「虎は千里行って、千里帰る」があります。虎は、一日に非常に遠い距離を走り、戻ってくることができるほど、強い生命力を持っており、あらゆる厄災を払うとされています。また、子どもに深い愛情を注ぐことでも知られており、「家族の絆」の象徴としても親しまれています。この言葉のように、親は子どもを危険から守り、安心安全な家庭の中で、たっぷりの愛情をもって育てていきたいですね。そのためには、親の子どもへの関わり方がとても重要になります。



子どもは一番身近な親をお手本にして学習しています。「子は親をうつす鏡」ということわざがあるように、**親の考え方や言動は子どもにとっても影響を与えています**。そこで、子どもへの関わり方について、親子教育の専門家であるアメリカのドロシー・ロー・ノルトさんの「子は親の鏡」という詩を紹介いたします。お子さんのよさを認め、励まし、ほめるなど、子育てを考えるきっかけになるとと思います。**お子さんへの言動を振り返り、親として良いお手本になれるよう、がんばっていきましょう！**

『子は親の鏡』

作 ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言っていて育てると、子どもは、みじめな
気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みあんな子になる
親が他人を羨んではかっていると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と
思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分を好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やわらかい子に
育つ
守ってあげれば、子どもは強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中は
いいところだと思えるようになる